

情報共有のあり方及び仕組み検討について

1、環境省オンラインストレージサービス「am-deer」による情報共有

今年度は、環境省オンラインストレージサービス内に作成した共有フォルダ「am-deer」を用いて、阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会構成員及びオブザーバー（以下、「協議会構成員等」と言う。）間情報共有を行った。

「https://www2.env.go.jp/onlinest_proself/」へアクセスし、事前に各構成員・オブザーバーへ配布されたユーザーID およびパスワードを入力し、ログインすることで必要なデータをダウンロードすることが可能である。



共有した情報の項目及びデータ形式を表にまとめる。

表 1、「am-deer」の構成

項目	データ形式	備考
1.協議会資料 1-1 事業計画、実施計画等 1-2 会議資料、議事録 a.協議会 b.現地研修会	pdf	事業計画、実施計画等の基礎資料の他、議会資料及び議事録を格納
2.情報共有 2-1 基礎情報 a.公園区域図	shp	実施計画上の阿寒地区、摩周地区、隣接地区のデータを整備
b.土地利用図	shp	出展：国土交通省国土数値情報ダウンロードサイト (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-b-v3_1.html)
c.植生図	shp	出展：「1/2.5 万現存植生図(平成 11～整備)」(生物多様性センター) (http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-025.html?kind=v3_1)
d.鳥獣保護区	shp	出展：国土交通省国土数値情報ダウンロードサイト (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A15.html)
2-2 協議会構成員等からの情報 a.GPS 首輪位置情報	csv gpx shp pdf	令和 4 年度に GPS 首輪を装着した 9 頭のエゾシカの月別の位置情報。随時更新。
b.エゾシカ対策実施状況 b-1 エゾシカ対策位置図	pdf	協議会構成員及びオブザーバーから収集した情報を地図に整理
b-2 捕獲数(一般狩猟及び許可捕獲)	pdf	北海道より提供のメッシュ別捕獲数データを加工
b-3 ライトセンサスデータ	pdf	北海道より提供のライトセンサスデータを加工

2、ツール

共有されたデータの中でも得に GIS データを活用する際に有効と思われるツールを整理した（表 2）。どのような場面でデータを活用するか PC 等の使用端末及びセキュリティー環境が異なることから、同一のデータ形式・ツールでの活用は難しいと思われる。使用環境に合わせて情報の活用ができるよう、データ形式を複数提供することとした。

表 2、各ツールの比較

ツール名	データ形式	特徴
PDF マップ	pdf	GIS ソフトで作成した地図を PDF 形式で出力。Acrobatreader で見ることが出来る。
地理院地図 GSI Mapsgis	csv kml	ブラウザ上で操作が可能。
ArcGIS	shp gpx kml csv	地図情報を重ね合わせることが可能。ArcGIS で見ることが出来る。
ジオグラフィカ	gpx kml	地図情報を重ね合わせることが可能。スマートフォンでも自分の位置を参照可能（電波圏外も可）。自分で取得した位置情報データをアップロードできる。
Google マイマップ	gpx kml csv	地図情報を重ね合わせることが可能。スマートフォンでも自分の位置を参照可能（電波圏内）。自分で取得したデータをアップロードできる。
GPS ハンドヘルドデバイス Garmin 等	gpx	地図情報を重ね合わせることが可能。スマートフォンでも自分の位置と参照可能（電波圏外も可）。自分で取得した位置情報データをアップロードできる。

3、現地研修会及び試験運用中に出た意見等

- ・最初から情報が多いと混乱するので、例えば GPS は月イチで良いのではないか。

→現在 GPS 首輪情報は月 1 程度で配信中

- ・データを活用した結果の例をいくつか提示してほしい。

→資料 3 参考 GPS 首輪による情報の活用事例

- ・ ArcGIS を利用している方が多く、一部 QGIS を使った事がある。

→shp、gpx、csv 形式は ArcGIS、QGIS で使用可能

- ・ 共有フォルダにてフォルダ移動時に読み込み画面でフリーズしてしまう。

→システム上エラー報告はない。推奨ブラウザは（Microsoft Edge、Google Chrome、Firefox）。それ以外でアクセスしている場合は推奨ブラウザにて動作確認。

4、今後の方針

環境省オンラインストレージサービスによる情報共有はいくつかの課題を確認していることから、引き続き改善策を検討する。